

HOT LINE

●ほっ、とラインやしお

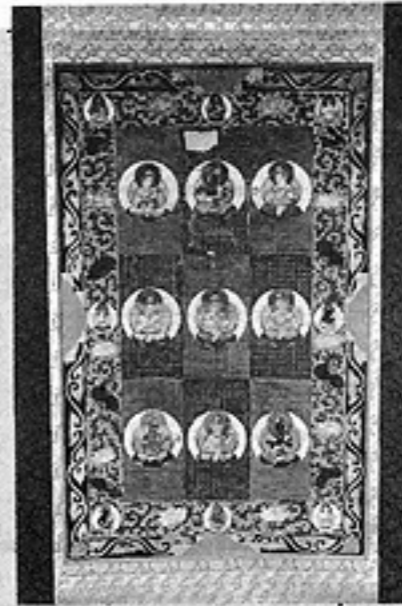
YASHIO

●ほっ、とラインやしおでは、催しなどの情報をお待ちしています。広聴広報課広聴広報係 電話内線226、FAX95-7367

新・市指定文化財の紹介その2

清勝院の中世仏教絵画

清勝院の「絹本着色理趣会曼荼羅図」は、室町時代の作と推定され、金剛曼荼羅を施した内院の意匠はみごとです。理趣会曼荼羅は、西界曼荼羅中に描かれることが多く、独立した彩色本の作例は少なく貴重な遺品です。また、「紙本着色不動明王三童子像」は「妙法蓮華」と呼ばれる南北朝期の臨濟宗夢窓派の僧竜湫周沢の作風を模した不動二童子像を一幅にあわせて構成したもので室町時代の作と推定されます。



絹本着色理趣会曼荼羅図



紙本着色不動明王三童子像

不動明王が斜め右をむく図像が多いなか、中央不動明王が、青墨で斜め左を向いている画は数少ない貴重な中世仏教絵画です。

6年ぶりのお披露目

大経寺の円空作千手観音立像が開扉

八條大経寺観音堂に安置されている円空作の「千手観音立像」が4月15日から17日までの3日間、公開されるもので、今年は一〇九〇年以來の御開帳となりました。



大経寺の円空仏は、寛文8年(1668)頃につくられた千手観音像とみられ、身丈が2m43cmあり、県内の円空仏では最大で、ケヤキ材の「古臼」を半割して胸から下につかためずらしいものです。

6年に一度の御開帳ということもあって、多くの方が参拝に訪れていました。

震災時に緊急避難所を設営

民間会社と協定を締結

市は3月22日、震災時に緊急避難所を設営できるように、東京のイベント会社「セレスポ」と「災三芳町、所沢市に次いで4番目、青時における緊急設備支援に関する協定」を結びました。協定期間は3年間で、県内では富士見市、三芳町、所沢市に次いで4番目、全国では5番目。



市生活経済部長(当時)とセレスポ代表

協定の内容は、大震災が発生した際、市の要請で5か所の避難所に仮設テント6張、テーブル、イス、ウッドラック看板、情報パネル看板などを同社が24時間以内で運搬、設置するといったもので、緊急避難所や連絡所の開設、情報の提供などが、円滑に行われるという効果が期待されています。

新鮮な農作物がいっぱい

野菜直売会

八潮市直売所連絡協議会主催による野菜直売会が、八潮市農協駐車場で、毎週土曜日・午前9時から正午まで開かれています。



野菜直売会は、昨年の11月から始められ、地元農家の皆さんが自分の畑で栽培した野菜などを提供しています。取材当日も大根・キャベツ・ほうれん草・ネギほか数種類の新鮮な野菜・切り花などが採りたての農産物が提供され、一部を除き100円で販売されました。販売開始1時間も経たないうちに売り切れてしまう野菜も続出。これから夏に向けては農作物もたくさんできます。新鮮おいしい八潮の農産物を食卓へどうぞ。

みんなで学校に苗木を植樹

春の住民共同緑化活動

4月18日、大原中学校で生徒、PTA、先生たち約80人が協力して、サクラ、クヌギ、ベニカナメの皆さんが主体となって苗木を植えて、育てることにより、緑化活動に対しての住民意識を高めてもらうと、毎年、春と秋の県民植樹週間にあわせて行われているものです。



奥住校長は「植えただけでなく、この苗木が大きく育つように皆さんが可愛がってあげれば、将来すばらしい桜並木になることでしょう。卒業してからも見に来てください」と話していました。

人にやさしいまちづくり

常磐新線沿線まちづくりシンポジウム

4月26日、八潮メッセで常磐新線沿線まちづくりシンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、平成8年の早期実現に向けて地元住民をはじめ県民の関心をより一層高めるとともに質の高い豊かなまちづくりを考へることを目的として行われたもので、テーマは、「ゆとり・うるおい」人にやさしいまちづくり。



慶応義塾大学教授・伊藤藤滋さんの基調講演や「駅・まち・交流」をテーマに多彩なパネリストを迎えトークセッションも行われました。